

Reply

Fumiaki Fujibe*

**Forecast Research Department, Meteorological Research Institute, Tsukuba 305, Japan.*

(Received 27 February 1997 ; Accepted 27 June 1997)

「短報」欄への「コメント」と「回答」の掲載について

「天気」編集委員会

海外の学術雑誌では、誌上で掲載論文に関する質疑応答が活発になされていますが、これまで日本気象学会の雑誌の中で掲載論文に関する質疑応答がなされることは極く稀にしかありませんでした（数少ない例としては、気象集誌, Vol. 66, 179-186など）。しかし、誌面上での質疑応答は、真摯な討論を通して気象学の発展に寄与するだけでなく、会員相互間のコミュニケーションを活発にする上でも望ましいと考えられます。

97年1月に孟岩会員から「天気」に、本誌第44号に掲載された藤部文昭会員の論文に対する意見が寄せられました。現在の投稿規定や投稿案内によると、短報は「コメント」と「回答」を掲載する欄としては位置づけられておらず、孟会員も当初、藤部会員の論文に対する意見を「会員の広場」のようなコーナーに掲載することを念頭に置いて投稿されました。しかしながら、「天気」編集委員会では「コメント」と「回答」は本来「短報」欄に掲載すべきではないかと考え、孟会

員に「短報」欄への投稿を前提に、表現や内容の整理改稿をお願いしました。

孟会員の改訂原稿は、「天気」編集委員会が拝見し、内容的に十分天気掲載を検討する価値があるとの判断を下したため、藤部会員に孟会員の「コメント」に対して「回答」を寄せる意志があるかどうかを確認しました。こうして提出された藤部会員の「回答」は孟会員の「コメント」と共に、査読者を依頼して内容の妥当性を検討していただき、その意見をもとに「天気」編集委員会で検討して、孟会員と藤部会員に改訂を依頼しました。このような手続きを経て、「天気」編集委員会では97年6月27日に「コメント」と「回答」を受理し、本号「短報」欄に掲載することにした次第です。

「天気」編集委員会では、98年1月号に掲載される投稿案内で「短報」欄の項を然るべく改訂し、今後とも「天気」に掲載された論文に対する「コメント」の投稿を歓迎していきたいと考えています。会員の皆様のご協力をお願いいたします。